



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

平成28年8月2日

上場会社名 参天製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4536 URL <http://www.santen.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 黒川 明

問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーショングループ グループマネージャー (氏名) クリストファー・ホフマン TEL 06-4802-9360

四半期報告書提出予定日 平成28年8月5日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 平成29年3月期第1四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に 帰属する四半期利益		四半期包括利益 合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	50,006	4.2	10,811	0.1	10,253	△8.7	7,323	△2.9	7,323	△2.9	1,613	△82.9
28年3月期第1四半期	47,975	42.4	10,799	83.5	11,226	88.4	7,541	85.5	7,541	85.5	9,435	147.7

	基本的1株当たり 四半期利益	希薄化後1株当たり 四半期利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	17.68	17.61
28年3月期第1四半期	18.24	18.15

コアベースでの連結経営成績は次のとおりです。上述のIFRSによる数値からコアベースの数値への調整内容は、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1)経営成績に関する説明①当第1四半期連結累計期間の業績の状況(イ)コアベース」をご覧ください。

	売上収益		コア営業利益		コア四半期利益		基本的1株当たり コア四半期利益		希薄化後1株当たり コア四半期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	50,006	4.2	12,353	1.2	8,762	6.8	21.15	21.07	21.07	21.07
28年3月期第1四半期	47,975	42.4	12,206	108.6	8,208	110.3	19.85	19.76	19.76	19.76

(2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に 帰属する持分		親会社所有者 帰属持分比率		1株当たり親会社 所有者帰属持分	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	%	%	円 銭	円 銭	
29年3月期第1四半期	328,782	256,254	256,254	256,254	256,254	77.9	77.9	618.67	618.67	
28年3月期	355,399	260,009	260,009	260,009	260,009	73.2	73.2	627.78	627.78	

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	-	12.00	-	13.00	25.00
29年3月期	-	-	-	-	-
29年3月期(予想)	-	13.00	-	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前当期利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
通期	200,000	2.4	36,300	△54.7	36,500	△54.1	25,300	△52.6	25,300	△52.6	61.09	61.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

コアベースでの連結業績予想は次のとおりです。上述のIFRSによる数値からコアベースの数値への調整内容は、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1)経営成績に関する説明①当第1四半期連結累計期間の業績の状況(イ)コアベース」をご覧ください。

	売上収益		コア営業利益		コア当期利益		コアEPS	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
通期	200,000	2.4	44,100	2.3	30,200	3.5	72.92	72.92

上記連結業績予想に関する詳細は、添付資料P6「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

なお、当第1四半期連結会計期間において、参天ビジネスサービス株式会社、参天アイケア株式会社および参天製薬（香港）有限公司を新たに設立したため、連結の範囲に含めています。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

(注) 詳細は、添付資料P6「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項(2)会計方針の変更・会計上の見積りの変更」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

29年3月期1Q	414,226,515株	28年3月期	414,191,515株
29年3月期1Q	22,409株	28年3月期	22,369株
29年3月期1Q	414,192,576株	28年3月期1Q	413,416,772株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。実際の業績は、事業環境変化、新薬の承認時期、為替レート変動、医薬品行政の動向など様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法)

当社は、平成28年8月2日（火）に証券アナリスト、機関投資家向けの第1四半期決算カンファレンスコールを開催する予定です。この説明会で使用する資料は、開催後当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更	6
3. 要約四半期連結財務諸表	7
(1) 要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書	7
(2) 要約四半期連結財政状態計算書	8
(3) 要約四半期連結持分変動計算書	10
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(セグメント情報等)	13
(重要な後発事象)	14
4. 連結参考資料	15
(1) 主要製品売上収益	15
(2) 医薬品開発状況	16
(3) 設備投資、減価償却費及び償却費、製品に係る無形資産償却費ならびに研究開発費	18

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 当第1四半期連結累計期間の業績の状況

(ア) IFRS（フル）ベース

当第1四半期の国内医療用眼科薬市場は、薬価改定の影響を受けつつも、緑内障治療剤および抗アレルギー治療剤を中心に堅調に推移しました。海外医療用眼科薬市場は、欧州・アジアで堅調に推移しました。また、国内一般用眼科薬市場は、前年同期と比べ大幅に拡大しました。

このような市場環境の下、事業は堅調に推移し、当第1四半期の業績は、次のとおりとなりました。

(単位：百万円)

	前第1四半期	当第1四半期	対前年同期増減率
売上収益	47,975	50,006	4.2%
営業利益	10,799	10,811	0.1%
税引前四半期利益	11,226	10,253	△8.7%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	7,541	7,323	△2.9%

[売上収益]

前年同期と比べ4.2%増加し、500億6百万円となりました。

これは、主力の国内医療用医薬品事業における継続的な売上伸長や、欧州において当社製品が順調に市場浸透していることによります。

[営業利益]

売上原価率が36.8%と前年同期と比べ0.4ポイント改善したこともあり、売上総利益は、前年同期と比べ5.0%増加し、316億1千1百万円となりました。

販売費及び一般管理費は、事業基盤強化と新製品価値の最大化のための費用が先行したこともあり、前年同期と比べ5.9%増加し141億円となり、研究開発費は、51億5千8百万円となりました。製品に係る無形資産償却費は、15億8千6百万円となりましたが、これは主に、米メルク社から2014年に譲受けた眼科製品に関する無形資産、ならびに昨年より欧州で発売を開始した「アイケルビス」に関する無形資産の償却によるものです。その他の収益は1億1千万円、その他の費用は6千6百万円となりました。

これらにより、営業利益は前年同期比微増の108億1千1百万円となりました。

[税引前四半期利益]

保有する外貨に対する評価損により金融費用が増加したこともあり、税引前四半期利益は前年同期と比べ8.7%減少し、102億5千3百万円となりました。

[親会社の所有者に帰属する四半期利益]

親会社の所有者に帰属する四半期利益は前年同期と比べ2.9%減少し、73億2千3百万円となりました。売上収益に対するその比率は、14.6%となりました。

(イ) コアベース

参天製薬グループではIFRS適用を機に、上述のIFRSによる業績（「IFRS（フル）ベース」）から一部の収益、費用を控除した「コアベース」での財務情報を経常的な業績を示す指標として、併せて開示します。IFRS（フル）ベースによる業績からコアベースでの業績への調整において控除する収益、費用は次のとおりです。

- ・製品に係る無形資産償却費
- ・その他の収益
- ・その他の費用
- ・金融収益
- ・金融費用

これらの項目に係る法人所得税費用を調整し、コアベースでの四半期利益を算出しています。

当第1四半期のコアベースでの業績は、以下のとおりとなりました。なお、()内の数値はIFRS (フル) ベースでの業績です。

(単位：百万円)

コアベース	前第1四半期		当第1四半期		対前年同期増減率	
		(フルベース)		(フルベース)		(フルベース)
売上収益	47,975	(47,975)	50,006	(50,006)	4.2%	(4.2%)
営業利益	12,206	(10,799)	12,353	(10,811)	1.2%	(0.1%)
四半期利益	8,208	(7,541)	8,762	(7,323)	6.8%	(△2.9%)

② 当第1四半期連結累計期間のセグメント別業績の状況

参天製薬グループは、医薬品事業とその他の事業セグメントから構成されます。売上収益の多くは医薬品事業によっており、その全売上収益に占める比率は、98.5%になります。

医薬品事業の売上収益は、前年同期と比べ4.0%増加し492億5千8百万円、営業利益は108億4千3百万円となりました。その他の事業の売上収益は、7億4千8百万円で、前年同期と比べ20.9%、1億3千万円増加しました。営業損失は3千2百万円となりました。

(単位：百万円)

	国内		海外		合計	
	金額	対前年同期増減率	金額	対前年同期増減率	金額	対前年同期増減率
医薬品事業	36,145	5.2%	13,113	0.8%	49,258	4.0%
医療用医薬品	33,202	3.8%	13,088	0.7%	46,291	2.9%
うち眼科薬	33,057	13.1%	12,665	9.2%	45,722	12.0%
うちその他医薬品	145	12.2%	423	△69.8%	568	△62.9%
一般用医薬品	2,943	24.3%	24	37.0%	2,967	24.4%
その他の事業	708	16.8%	40	220.9%	748	20.9%
医療機器	614	15.5%	6	△54.1%	620	13.9%
その他	95	26.5%	34	—	129	72.3%
合計	36,854	5.4%	13,152	1.0%	50,006	4.2%

(注) 各セグメントの売上収益は、外部顧客に対する売上収益を表しています。

[医薬品事業]

(医療用医薬品)

<眼科薬>

[国内]

医療施設・医療関係者のそれぞれのニーズを的確に捉えた医薬情報提供活動を展開することにより、国内医療用眼科薬の売上収益は、前年同期と比べ13.1%増加し、330億5千7百万円となりました。

緑内障・高眼圧症においては、従来からの主力製品の「タプロス点眼液」、「コソプト配合点眼液」に加えて「タプコム配合点眼液」にも注力した結果、それぞれの製品の売上収益は、「タプロス点眼液」は前年同期と比べ10.2%増加し25億2千4百万円、「コソプト配合点眼液」は前年同期と比べ7.7%増加し30億5千4百万円、「タプコム配合点眼液」は前年同期と比べ117.2%増加し5億6千万円となりました。

ドライアイ（眼球乾燥症候群）などに伴う角結膜上皮障害治療剤領域においては、「ジクアス点眼液」の売上収益は、前年同期と比べ28.7%増加し26億8千4百万円、「ヒアレイ点眼液」の売上収益は、前年同期と比べ14.0%減少し32億6千7百万円となりました。

抗アレルギー点眼剤領域においては、「アレジオン点眼液」の売上収益は、前年同期と比べ72.0%増加し、20億3千4百万円となりました。

網膜疾患治療剤領域においては、「アイリーア硝子体内注射液」の売上収益は、滲出型加齢黄斑変性を含め適応を取得した各疾患への医薬情報提供活動の促進により、前年同期と比べ32.1%増加し、118億9千4百万円となりました。

〔海外〕

2014年の米メルク社からの眼科製品の譲受け以降、当該製品を含めた自社製品の市場浸透に努めた結果、海外における売上収益は、大幅な円高の影響を受けたものの円換算ベースで前年同期と比べ9.2%増加し、126億6千5百万円となりました。

欧州における売上収益は、円高の影響を吸収し、円換算ベースで前年同期と比べ26.9%増加し、67億1千5百万円となりました。医薬情報提供などの普及促進活動に注力し、緑内障・高眼圧症治療剤「タフロタン」、「サフルタン」、「コソプト」が市場に浸透しています。

アジアにおける売上収益は、円高の影響を受けたことにより円換算ベースでは前年同期と比べ5.4%減少し、59億4千8百万円となりました。主力品の普及促進活動の展開により、当社製品の市場浸透が進み、中国を中心として、現地通貨ベースでは二桁成長を実現しました。

<その他医薬品>

その他医薬品には、技術提携（導出）契約に基づく収入、受託製造等が含まれます。また、米メルク社の眼科製品の譲受けに関し、関連する法制上の手続きが完了し、各国・地域で参天製薬グループの製品としての販売が開始されるまでの間、米メルク社側に生じた利益の一部が契約に基づいて当社に還元されます。この収入が2億1千3百万円あったことにより、その他医薬品の売上収益は、5億6千8百万円となりました。

（一般用医薬品）

インバウンド需要の取り込みに加えて、国内に向けた販売促進活動にも注力した結果、一般用医薬品の売上収益は前年同期と比べ24.4%増加し、29億6千7百万円となりました。

[その他の事業]

（医療機器）

高屈折率の亚克力素材を光学部に用いたフォールダブル眼内レンズ「エタニティー」シリーズの普及促進活動に引き続いて注力した結果、医療機器の売上収益は、前年同期と比べ13.9%増加し、6億2千万円となりました。

（その他）

その他の売上収益は、株式会社クレール（連結子会社）での無塵・無菌服のクリーニング業によるものとサプリメント製品の販売によるもので、1億2千9百万円となりました。

③ 研究開発活動

参天製薬グループは、中長期的な成長の源泉として新製品の創製を重視しており、眼科薬を中心とした積極的な研究開発活動を進めています。

緑内障・高眼圧症領域において、プロスタグランジンF_{2α}誘導体DE-085（一般名：タフルプロスト）は、2008年12月より日本で「タプロス点眼液」として販売しています。海外では欧州とアジアで自社販売しており、2016年3月より中国にて販売しています。緑内障・高眼圧症を適応症とする配合剤DE-111（一般名：タフルプロスト/チモロールマレイン酸塩）は、2014年11月より日本において「タプコム配合点眼液」として販売しています。欧州において、2014年10月に販売承認を取得し、「TAPTIQOM」（タプティコム）として2015年1月より順次、各国にて発売しています。また、アジアでも順次販売承認を申請中で、2016年3月にタイにて販売承認を取得し、2016年4月に韓国にて発売しました。緑内障・高眼圧症を適応症とするEP2受容体作動薬DE-117

（一般名：未定）は、米国で後期第Ⅱ相試験を終了しました。日本において、2015年12月に後期第Ⅱ/Ⅲ相試験を開始しました。緑内障・高眼圧症を対象とした米国での第Ⅱ相試験を終了しているFP/EP3受容体デュアル作動薬DE-126（一般名：Sepetaprost）は、2016年3月に小野薬品工業株式会社より導入しグローバルの開発の権利を取得しました。

角結膜疾患（ドライアイを含む）領域において、DE-089（一般名：ジクアホソルナトリウム）は、2010年12月より日本で「ジクアス点眼液」として販売しています。また、韓国では2013年10月より販売しています。中国では輸入医薬品承認を申請中です。2016年2月よりアジアで順次発売しています。Cyclokate（開発品名：シクロカット、一般名：シクロスポリン、製品名：「Ikervis」（アイケルビス））は、2015年7月に、成人患者において人工涙液等で効果が不十分なドライアイに伴う重度の角膜炎を適応症として、ドイツにて販売、順次、欧州各国にて発売しています。アジアにおいて順次販売承認を申請中です。韓国において2015年12月に販売承認を申請しました。春季カタルを適応症とするVekacia（開発品名：ベカシア、一般名：シクロスポリン）は、2016年3月に欧州で第Ⅲ相試験を終了しました。

網膜・ぶどう膜疾患領域において、ぶどう膜炎を適応症とするDE-109（一般名：シロリムス）は、欧州にて2016年5月に販売承認申請を一旦取り下げました。今後、再申請を予定しています。また、米国、他で第Ⅲ相試験を実施中です。DE-120（一般名：未定）は、滲出型加齢黄斑変性を対象に前期第Ⅱ相試験を米国で実施中です。DE-122（一般名：未定）は、滲出型加齢黄斑変性を対象に第Ⅰ/Ⅱ相試験を米国で実施中です。

（2）財政状態に関する説明

① 資産、資本及び負債の状況

当第1四半期末の資産は、前期末と比べ266億1千8百万円減少し、3,287億8千2百万円となりました。これは法人所得税等の支払による現金及び現金同等物の減少などによるものです。

資本は、前期末と比べ37億5千5百万円減少し、2,562億5千4百万円となりました。これは利益剰余金の増加などありましたが、その他の資本の構成要素の減少によるものです。

負債は、前期末と比べ228億6千2百万円減少し、725億2千8百万円となりました。これは法人税等の支払による未払法人所得税等およびその他の金融負債の減少などによるものです。

以上の結果、親会社所有者帰属持分比率は、前期末と比べ4.7ポイント増加し、77.9%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第1四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、142億6千2百万円の支出（前年同期は、3億3千8百万円の支出）となりました。これは四半期利益が73億2千3百万円などありましたが、法人所得税の支払いが200億3千2百万円あったことなどによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、41億1千1百万円の支出（前年同期は、25億5千9百万円の支出）となりました。これは無形資産の取得による支出が23億9千2百万円、有形固定資産の取得による支出が16億1百万円あったことなどによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、46億7千2百万円の支出（前年同期は、75億5千7百万円の支出）となりました。これは長期借入れによる収入が30億円ありましたが、配当金の支払いが52億7千9百万円、長期借入金の返済が24億1千2百万円あったことなどによるものです。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第1四半期末残高は、前期末と比べ252億8千2百万円減少し、745億1千6百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2016年5月11日に公表した2017年3月期の連結業績予想に、為替変動の影響や、7月19日にリリースしたInnFocus, Inc. の買収に伴う影響を反映させるため、同連結業績予想を次のとおり変更することになりました。

(ア) IFRS (フル) ベース

	売上収益	営業利益	税引前当期利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	204,000	38,700	39,000	26,900	26,900	64.95
今回修正予想 (B)	200,000	36,300	36,500	25,300	25,300	61.09
増減額 (B - A)	△4,000	△2,400	△2,500	△1,600	△1,600	△3.86
増減率 (%)	△2.0%	△6.2%	△6.4%	△5.9%	△5.9%	—
前期実績	195,291	80,180	79,470	53,373	53,373	128.99

(イ) コアベース

	売上収益	コア営業利益	コア当期利益	コアEPS
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	204,000	46,000	31,800	76.78
今回修正予想 (B)	200,000	44,100	30,200	72.92
増減額 (B - A)	△4,000	△1,900	△1,600	△3.86
増減率 (%)	△2.0%	△4.1%	△5.0%	—
前期実績	195,291	43,067	29,163	70.48

(注) コア営業利益およびコア当期利益は、企業買収に係る一過性費用の影響を除いています。

2. サマリー情報 (注記事項) に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、当第1四半期連結会計期間において、参天ビジネスサービス株式会社、参天アイケア株式会社および参天製薬(香港)有限公司を新たに設立したため、連結の範囲に含めています。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、以下の新たに適用する基準書を除き、前期の連結財務諸表において適用した会計方針と同一です。

これらを適用したことによる参天製薬グループの要約四半期連結財務諸表への重要な影響はありません。

基準書		強制適用時期 (以降開始年度)	参天製薬グループ 適用時期	新設・改訂の概要
IAS第16号	有形固定資産	2016年1月1日	2017年3月期	減価償却の許容される方法の明確化
IAS第38号	無形資産	2016年1月1日	2017年3月期	償却の許容される方法の明確化

3. 要約四半期連結財務諸表

(1) 要約四半期連結純損益及びその他の包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
売上収益	47,975	50,006
売上原価	△17,869	△18,395
売上総利益	30,106	31,611
販売費及び一般管理費	△13,313	△14,100
研究開発費	△4,587	△5,158
製品に係る無形資産償却費	△1,431	△1,586
その他の収益	99	110
その他の費用	△75	△66
営業利益	10,799	10,811
金融収益	463	427
金融費用	△36	△985
税引前四半期利益	11,226	10,253
法人所得税費用	△3,685	△2,930
四半期利益	7,541	7,323
その他の包括利益		
純損益に振り替えられない項目：		
確定給付制度の再測定	—	—
その他の包括利益を通じて公正価値で測定 する金融資産の純変動	153	△1,067
純損益に振り替えられる可能性のある項目：		
在外営業活動体の換算差額	1,740	△4,642
その他の包括利益	1,894	△5,710
四半期包括利益合計	9,435	1,613
四半期利益の帰属		
親会社の所有者持分	7,541	7,323
非支配持分	—	—
四半期利益	7,541	7,323
四半期包括利益合計の帰属		
親会社の所有者持分	9,435	1,613
非支配持分	—	—
四半期包括利益合計	9,435	1,613
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益(円)	18.24	17.68
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	18.15	17.61

(2) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)
資産		
非流動資産		
有形固定資産	27,991	28,165
無形資産	83,681	80,591
金融資産	44,535	43,291
繰延税金資産	2,345	1,948
その他の非流動資産	2,109	1,678
非流動資産合計	160,660	155,672
流動資産		
棚卸資産	24,996	25,486
営業債権及びその他の債権	65,998	69,086
その他の金融資産	234	306
その他の流動資産	3,714	3,716
現金及び現金同等物	99,798	74,516
流動資産合計	194,739	173,110
資産合計	355,399	328,782

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)
資本		
資本金	7,695	7,707
資本剰余金	8,389	8,401
自己株式	△24	△24
利益剰余金	221,945	223,884
その他の資本の構成要素	22,003	16,286
親会社の所有者に帰属する持分合計	260,009	256,254
資本合計	260,009	256,254
負債		
非流動負債		
金融負債	12,944	13,652
退職給付に係る負債	2,556	2,228
引当金	1,629	1,561
繰延税金負債	3,988	4,910
その他の非流動負債	1,043	1,148
非流動負債合計	22,161	23,499
流動負債		
営業債務及びその他の債務	24,504	24,260
その他の金融負債	19,881	15,285
未払法人所得税等	20,431	1,396
引当金	1,276	1,330
その他の流動負債	7,138	6,759
流動負債合計	73,230	49,029
負債合計	95,391	72,528
資本及び負債合計	355,399	328,782

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第1四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)

(単位:百万円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	
					確定給付制度 の再測定	その他の包括 利益を通じて 公正価値で測 定する金融資 産の純変動
2015年4月1日残高	7,383	8,077	△18	178,840	—	11,944
四半期包括利益						
四半期利益				7,541		
その他の包括利益						153
四半期包括利益合計	—	—	—	7,541	—	153
所有者による拠出及び 所有者への分配						
新株の発行	144	144				
自己株式の取得			△4			
配当金				△4,959		
所有者による拠出及び所有 者への分配合計	144	144	△4	△4,959	—	—
2015年6月30日残高	7,527	8,222	△23	181,422	—	12,098

	その他の資本の構成要素			親会社の所有者 に帰属する 持分合計	資本合計
	在外営業活動体 の換算差額	新株予約権	合計		
2015年4月1日残高	5,000	553	17,497	211,779	211,779
四半期包括利益					
四半期利益			—	7,541	7,541
その他の包括利益	1,740		1,894	1,894	1,894
四半期包括利益合計	1,740	—	1,894	9,435	9,435
所有者による拠出及び 所有者への分配					
新株の発行		△41	△41	247	247
自己株式の取得			—	△4	△4
配当金			—	△4,959	△4,959
所有者による拠出及び所有 者への分配合計	—	△41	△41	△4,716	△4,716
2015年6月30日残高	6,740	512	19,350	216,498	216,498

当第1四半期連結累計期間（自 2016年4月1日 至 2016年6月30日）

（単位：百万円）

	その他の資本の構成要素					
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	確定給付制度 の再測定	その他の包括 利益を通じて 公正価値で測 定する金融資 産の純変動
2016年4月1日残高	7,695	8,389	△24	221,945	—	18,676
四半期包括利益						
四半期利益				7,323		
その他の包括利益						△1,067
四半期包括利益合計	—	—	—	7,323	—	△1,067
所有者による拠出及び 所有者への分配						
新株の発行	12	12				
自己株式の取得			△0			
配当金				△5,384		
所有者による拠出及び所有 者への分配合計	12	12	△0	△5,384	—	—
2016年6月30日残高	7,707	8,401	△24	223,884	—	17,609

	その他の資本の構成要素					資本合計
	在外営業活動体 の換算差額	新株予約権	合計	親会社の所有者 に帰属する 持分合計		
2016年4月1日残高	2,611	716	22,003	260,009		260,009
四半期包括利益						
四半期利益			—	7,323		7,323
その他の包括利益	△4,642		△5,710	△5,710		△5,710
四半期包括利益合計	△4,642	—	△5,710	1,613		1,613
所有者による拠出及び 所有者への分配						
新株の発行		△8	△8	16		16
自己株式の取得			—	△0		△0
配当金			—	△5,384		△5,384
所有者による拠出及び所有 者への分配合計	—	△8	△8	△5,369		△5,369
2016年6月30日残高	△2,031	708	16,286	256,254		256,254

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
四半期利益	7,541	7,323
減価償却費及び償却費	2,173	2,396
減損損失	21	12
金融収益及び金融費用	△260	△271
法人所得税費用	3,685	2,930
営業債権及びその他の債権の増減 (△は増加)	△3,245	△4,033
棚卸資産の増減 (△は増加)	△1,645	△1,471
営業債務及びその他の債務の増減 (△は減少)	1,271	△3
引当金及び退職給付に係る負債の増減 (△は減少)	172	△93
その他	△3,655	△1,282
小計	6,057	5,507
利息の受取額	14	13
配当金の受取額	271	266
利息の支払額	△25	△16
法人所得税の支払額	△6,655	△20,032
営業活動によるキャッシュ・フロー	△338	△14,262
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資の取得による支出	△20	△111
有形固定資産の取得による支出	△2,001	△1,601
有形固定資産の売却による収入	—	2
無形資産の取得による支出	△531	△2,392
その他	△8	△8
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,559	△4,111
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	3,000
長期借入金の返済による支出	△2,949	△2,412
配当金の支払額	△4,850	△5,279
その他	242	19
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,557	△4,672
現金及び現金同等物の増減額	△10,453	△23,044
現金及び現金同等物の期首残高	65,923	99,798
現金及び現金同等物の為替変動による影響	581	△2,237
現金及び現金同等物の四半期末残高	56,051	74,516

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	計	調整額	要約四半期 連結財務諸表	
	医薬品					
外部顧客への売上収益	47,356	619	47,975	—	47,975	
セグメント間の内部売上収益 又は振替高	—	168	168	△168	—	
計	47,356	787	48,143	△168	47,975	
セグメント利益又は損失 (△) (注) 2	11,274	△475	10,799	—	10,799	
					金融収益	463
					金融費用	△36
					税引前四半期利益	11,226

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2 セグメント利益又は損失は、営業利益ベースの数値です。

当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	計	調整額	要約四半期 連結財務諸表	
	医薬品					
外部顧客への売上収益	49,258	748	50,006	—	50,006	
セグメント間の内部売上収益 又は振替高	—	141	141	△141	—	
計	49,258	890	50,147	△141	50,006	
セグメント利益又は損失 (△) (注) 2	10,843	△32	10,811	—	10,811	
					金融収益	427
					金融費用	△985
					税引前四半期利益	10,253

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントで、医療機器事業などが含まれています。

2 セグメント利益又は損失は、営業利益ベースの数値です。

(重要な後発事象)

(1) InnFocus, Inc. の買収

2016年7月19日、当社とInnFocus, Inc. (以下、「InnFocus社」) は、緑内障用デバイス InnFocus MicroShunt® (以下、「MicroShunt」) を開発するInnFocus社を当社が企業買収することについて、最終合意しました。

①買収の目的

InnFocus社は、初期から後期の原発開放隅角緑内障における眼圧下降を目的としたインプラント手術に用いるデバイスMicroShuntを開発しています。MicroShuntは諸外国で実施した臨床試験において単独もしくは白内障手術との併用で施術され、房水の流出を促すことによる眼圧下降効果が確認されています。MicroShuntは、既に欧州におけるCEマークの承認を取得しており、現在、FDA承認取得に向けPMA (Pre-Market Approval : 市販前承認) 申請の最終段階の臨床試験が、米国および欧州にて実施されています。

当社は、この買収により、緑内障領域における製品パイプラインのさらなる強化に取り組み、眼科領域のイノベーションをリードする存在であり続けたいと考えています。また、当社は『世界で存在感のあるスペシャリティ・カンパニー』を長期的な経営ビジョンとして掲げており、グローバルな眼科領域においてさらなる治療貢献を目指してまいります。MicroShuntは新たな治療選択肢として、患者さんに大きな治療効果をもたらすことができると期待しています。

②対象会社の概要

名称 : InnFocus, Inc.
 所在地 : 米国 フロリダ州 マイアミ
 代表者の氏名 : 代表取締役会長 Randy Lindholm
 事業内容 : 緑内障手術の次世代製品の開発、供給
 資本金 : 0.9千米ドル (2015年12月末現在)

③取得対価

契約実行 (クロージング) 時に225百万米ドルを支払う予定です。

また、契約上、MicroShuntの開発の進捗および販売実績に応じたマイルストーンを支払う定めがあります。

④取得予定の議決権付資本持分割合

取得前の議決権付資本持分割合 9.56%
 取得後の議決権付資本持分割合 100.00%

⑤買収完了日

未定

米国のハート・スコット・ロディオ反トラスト改正法に基づく許可取得により契約実行 (クロージング) となり買収手続きが完了します。

4. 連結参考資料

(1) 主要製品売上収益

(単位：百万円)

品目名 (有効成分・剤型)	薬効成分	地域	2016年3月期				2017年3月期			
			第1四半期 累計実績	対前年 伸長率	通期 実績	対前年 伸長率	第1四半期 累計実績	対前年 伸長率	通期 見込	対前年 伸長率
クラビット点眼液 (レボフロキサシン点眼液)	合成抗菌 点眼剤	合計	4,087	23.5%	14,250	6.4%	3,459	△15.4%	11,437	△19.7%
		日本	1,612	△4.3%	5,918	△8.9%	1,334	△17.2%	4,439	△25.0%
		アジア	2,092	59.0%	7,001	29.1%	1,840	△12.1%	5,689	△18.7%
		欧州	383	23.5%	1,331	△10.0%	285	△25.6%	1,309	△1.6%
タリビッド点眼液 (オフロキサシン点眼液)	合成抗菌 点眼剤	合計	619	30.9%	1,761	△7.8%	424	△31.6%	1,348	△23.5%
		日本	186	△8.9%	673	△11.7%	157	△15.5%	422	△37.3%
		アジア	434	61.0%	1,088	△5.2%	267	△38.5%	926	△14.9%
		欧州	-	-	-	-	-	-	-	-
タブコム配合点眼液 (タフルプロスト/ チモロールマレイン酸塩点眼液)	緑内障 治療剤	合計	307	-	1,534	302.3%	632	106.0%	2,283	48.8%
		日本	258	-	1,381	303.3%	560	117.2%	1,734	25.6%
		アジア	-	-	-	-	5	-	7	-
		欧州	49	-	153	292.8%	67	36.5%	541	253.4%
タブロス点眼液 (タフルプロスト点眼液)	緑内障 治療剤	合計	3,695	37.9%	15,633	26.8%	4,151	12.3%	17,030	8.9%
		日本	2,290	33.2%	9,168	10.1%	2,524	10.2%	10,285	12.2%
		アジア	266	41.1%	1,097	34.3%	313	17.3%	1,251	14.0%
		欧州	1,139	47.5%	5,368	68.6%	1,314	15.4%	5,487	2.2%
		その他	-	-	-	-	-	-	7	-
コソプト配合点眼液 (ドルゾラミド塩酸塩/ チモロールマレイン酸塩点眼液)	緑内障 治療剤	合計	4,666	87.5%	20,583	65.0%	5,943	27.4%	21,610	5.0%
		日本	2,835	14.0%	11,214	4.9%	3,054	7.7%	11,719	4.5%
		アジア	666	-	2,493	179.6%	704	5.7%	2,381	△4.5%
		欧州	1,165	-	6,876	666.4%	2,185	87.6%	7,451	8.4%
		その他	-	-	-	-	-	-	59	-
チモプトール点眼液 (チモロールマレイン酸塩点眼液)	緑内障 治療剤	合計	482	95.0%	1,930	52.3%	453	△6.1%	1,414	△26.7%
		日本	331	33.9%	1,182	△2.8%	281	△15.2%	902	△23.7%
		アジア	36	-	140	380.8%	31	△15.8%	118	△15.6%
		欧州	115	-	608	-	142	23.3%	393	△35.3%
チモプトールXE点眼液 (チモロールマレイン酸塩持続性点眼液)	緑内障 治療剤	合計	649	65.3%	2,463	24.1%	618	△4.8%	2,411	△2.1%
		日本	510	29.9%	1,886	△1.6%	459	△10.0%	1,558	△17.4%
		アジア	23	-	87	221.9%	23	1.3%	81	△6.9%
		欧州	116	-	489	-	136	16.7%	772	57.7%
トルソプト点眼液 (ドルゾラミド塩酸塩点眼液)	緑内障 治療剤	合計	1,040	-	4,561	146.2%	1,135	9.1%	3,647	△20.0%
		日本	577	-	2,125	37.6%	477	△17.3%	1,533	△27.9%
		アジア	144	-	446	706.0%	69	△52.1%	240	△46.1%
		欧州	319	-	1,990	688.7%	588	84.5%	1,863	△6.4%
その他	-	-	-	-	-	-	11	-		
デタントール点眼液 (ブナゾシン塩酸塩点眼液)	緑内障 治療剤	日本	300	9.0%	1,117	△9.1%	295	△1.9%	1,060	△5.1%
レスキュラ点眼液 (イソプロピルウブロスト点眼液)	緑内障 治療剤	日本	486	2.5%	1,845	△4.7%	458	△5.7%	1,666	△9.7%
アレジオン点眼液 (エビナスチン塩酸塩点眼液)	抗アレルギー 点眼剤	日本	1,182	64.2%	9,483	41.6%	2,034	72.0%	11,741	23.8%
フルメトロン点眼液 (フルオロメトロン点眼液)	抗炎症 点眼剤	合計	927	1.0%	3,775	△0.9%	860	△7.1%	3,277	△13.2%
		日本	617	△3.5%	2,655	△6.6%	561	△9.1%	2,219	△16.4%
アジア	309	11.5%	1,120	15.8%	299	△3.2%	1,057	△5.6%		
カリーユニ点眼液 (ピレノキシ点眼液)	老人性白内障 治療剤	合計	1,099	15.8%	4,187	7.1%	1,057	△3.9%	4,051	△3.2%
		日本	739	3.9%	2,900	△0.3%	766	3.7%	2,835	△2.2%
アジア	361	51.1%	1,287	28.6%	291	△19.4%	1,216	△5.5%		
オベガンハイ眼粘弾剤 (ヒアルロン酸ナトリウム眼科手術補助剤)	眼科手術 補助剤	日本	667	4.1%	2,568	△0.2%	630	△5.6%	2,318	△9.7%
アイリニア硝子体内注射液 (アフリベルセプト(遺伝子組換え) 硝子体内注射液)	眼科用VEGF 阻害剤	日本	9,001	92.1%	39,988	60.7%	11,894	32.1%	45,688	14.3%
ヒアレイン点眼液 (ヒアルロン酸ナトリウム点眼液)	角結膜疾患 治療剤	合計	5,156	6.3%	19,864	1.3%	4,763	△7.6%	15,680	△21.1%
		日本	3,797	0.1%	14,491	△5.4%	3,267	△14.0%	10,457	△27.8%
アジア	1,359	29.0%	5,372	25.1%	1,496	10.1%	5,223	△2.8%		
ジクアス点眼液 (ジクアホルソナトリウム点眼液)	角結膜疾患 治療剤	合計	2,260	47.8%	9,631	22.0%	2,918	29.1%	13,357	38.7%
		日本	2,087	44.5%	8,880	19.7%	2,684	28.7%	12,313	38.7%
アジア	174	104.1%	751	57.7%	234	34.5%	1,043	38.9%		
Ikervis(アイケルビス) (シクロスポリン点眼液)	角結膜疾患 治療剤	欧州	-	-	751	-	164	-	1,922	155.8%
Cationorm(カチオノーム)	角結膜疾患 治療剤	合計	239	96.2%	1,453	77.3%	321	34.2%	2,267	56.1%
		アジア	24	123.8%	167	89.6%	28	19.3%	258	54.6%
		欧州	216	126.2%	1,029	75.7%	291	34.8%	1,712	66.4%
		北米	-	△100.0%	242	68.9%	-	-	243	0.5%
		その他	-	△100.0%	14	493.7%	2	-	53	268.9%
一般用医薬品			2,386	81.3%	11,004	64.1%	2,967	24.4%	13,849	25.9%

※上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。

(2) 医薬品開発状況

■ 医薬品開発状況一覧表(臨床段階)

一般名	開発コード	効能・効果	自社／導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
タフルプロスト	DE-085	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	中国						2016年3月
プロスタグランジンF ₂ α誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。2008年12月以降、日本や欧米で発売。アジアでは香港、韓国、インドネシア、シンガポール等で発売。2016年3月、中国にて発売。										
ジクアホソルナトリウム	DE-089	ドライアイ	Merck Sharp & Dohme Corp. (米国)	中国						2012年1月
				アジア						2016年2月
角結膜上皮からムチンや水分の分泌を促すドライアイ治療剤。既存薬と異なる作用機序を持つ。2010年12月より日本にて発売。2013年10月、韓国にて発売。2012年1月より、中国で輸入医薬品承認を申請中。2016年2月にベトナムにて、2016年4月にタイにて発売。アジアで順次販売承認を申請中。										
ロメリジン塩酸塩	DE-090	緑内障	MSD	日本						
視野欠損の進行抑制作用を有する新しい緑内障治療剤。カルシウム拮抗作用に基づく経口緑内障薬としては、唯一の開発薬剤。NMDA受容体拮抗剤と異なり、全身性の副作用が軽微であり、高い安全性を有する。										
シロリムス	DE-109	ぶどう膜炎	自社	米国						
				日本						
				欧州						
				アジア						2015年4月
免疫抑制作用、血管新生抑制作用等を有する硝子体内注射剤。米国、他でフェーズ3試験を実施中。2015年4月より、アジアで販売承認を申請中。欧州医薬品庁への医薬品販売承認申請を取り下げ、今後改めて申請する予定。										
タフルプロスト/ チモロールマレイン酸塩	DE-111	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	韓国						2016年4月
				アジア						2016年3月
プロスタグランジンF ₂ α誘導体およびβ遮断剤の配合剤。2014年11月、日本で発売。欧州において、2014年10月に販売承認を取得し、2015年1月以降、順次発売。2016年4月、韓国にて発売。アジアで順次販売承認を申請中。2016年3月、タイにて販売承認取得。										
未定	DE-117	緑内障・高眼圧症	宇部興産と共同開発	米国						
				日本						(フェーズ2b/3)
新規メカニズムのEP2受容体作動薬。2015年2月、米国でフェーズ2b試験を終了。2015年12月、日本でフェーズ2b/3試験を開始。										
タフルプロスト	DE-118	緑内障・高眼圧症	旭硝子と共同開発	アジア						2016年4月
プロスタグランジンF ₂ α誘導体の緑内障・高眼圧症治療剤。防腐剤を含まない、1回使い切りタイプの製剤。2013年10月、日本で発売。2015年6月以降、香港等で販売承認を取得し、その他のアジアで順次、販売承認を申請中。2016年4月以降、シンガポール等にて発売。										
未定	DE-120	滲出型加齢黄斑変性	自社	米国						
VEGFおよびPDGFの阻害作用(デュアル阻害剤)を有する硝子体内注射剤。2015年4月より、米国でフェーズ2a試験を実施中。										
未定	DE-122	滲出型加齢黄斑変性	TRACON社	米国						(フェーズ1/2)
抗エンドグリン抗体の硝子体内注射剤。2015年9月より、米国でフェーズ1/2試験を実施中。										

一般名	開発コード	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
Sepetaprost	DE-126	緑内障・高眼圧症	小野薬品工業	米国						
FP受容体およびEP3受容体への作動作用（デュアル作動薬）を有する新規メカニズムのプロスタグランジン系の緑内障・高眼圧症治療剤。										

一般名	開発品名	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	Cyclokot	ドライアイに伴う 重度の角膜炎	自社	欧州				2015年7月		
				米国						
				韓国				2015年12月		
				アジア				2015年11月		
免疫抑制作用により、ドライアイに伴う重度の角膜炎を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。2015年7月、ドイツおよびイギリスにて発売し、欧州で順次発売予定。アジアで2015年11月より順次販売承認を申請。2015年12月、韓国で販売承認を申請。										

一般名	開発品名	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
シクロスポリン	Vekacia	春季カタル	自社	欧州						
免疫抑制作用により、春季カタルの症状を改善する乳化点眼剤。カチオニック製剤技術により組織移行性を高めた製剤。2016年3月、欧州にてフェーズ3試験を終了。										

一般名	開発品名	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
ラタノプロスト	Catioprost	緑内障・高眼圧症	自社	欧州						
プロスタグランジンF _{2α} 誘導体の緑内障・高眼圧症治療用乳化点眼剤。										

一般名	開発品名	効能・効果	自社/導入等	地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	承認	発売
デキサメタゾン バルミチン酸エステル	Cortiject	糖尿病黄斑浮腫	自社	欧州	(フェーズ1/2)					
抗炎症作用を有する硝子体内注射剤。										

■2015年度第4四半期発表時（2016年5月11日）からの変更点

開発コード / 品名	変更点
DE-109	2016年5月、欧州での販売承認申請取り下げ。今後、再申請予定。

(3) 設備投資、減価償却費及び償却費、製品に係る無形資産償却費ならびに研究開発費

■設備投資

(単位：百万円)

	2016年3月期		2017年3月期	
	第1四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	通期見込
設備投資額	834	4,474	1,555	7,070

■減価償却費及び償却費

(単位：百万円)

	2016年3月期		2017年3月期	
	第1四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	通期見込
総額	742	3,133	810	3,500
製造経費	335	1,445	368	1,590
販売管理費	247	1,035	281	1,250
研究開発費	160	653	161	660

(注) 製品に係る無形資産償却費および長期前払費用の償却費は除いています。

■製品に係る無形資産償却費

(単位：百万円)

	2016年3月期		2017年3月期	
	第1四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	通期見込
総額	1,431	6,205	1,586	7,050
メルク無形資産償却費	1,291	5,186	1,318	5,310
アイケルビス無形資産償却費	63	625	174	660
その他	78	394	94	1,080

■研究開発費

(単位：百万円)

	2016年3月期		2017年3月期	
	第1四半期 累計実績	通期実績	第1四半期 累計実績	通期見込
研究開発費	4,587	19,990	5,158	20,400
対売上収益比	9.6%	10.2%	10.3%	10.2%

なお、上記の予想等は、現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績等は、事業環境変化などにより、大きく結果が異なる可能性があります。